

2月20日（火）ひまわり1組の研究授業を行いました。中島先生へのインタビューをしたり、子ども達と一緒に仕事を体験したりして自分で教材を作っていました。「生活を支えているあらゆる人への感謝の気持ちをもたせたい」という先生の思いが伝わってきましたね。当日、欠席の児童がいて予定が大きく変わった中で大変だったと思いますが、貴重な授業提案をありがとうございました。

令和6年2月20日（火） ひまわり1組

**主題名** 学校を支える人たち **内容項目** B7「感謝」

**教材名** 「中島先生ってどんな人？」 **出典** 自作教材



【授業者より】

- ・中島先生の仕事体験を事前に行ったが、竹馬を直す簡単な作業だったので不十分だっただろうか。体験中に中島先生とたくさん話げたのは良かった。
- ・勤劳か感謝かで迷った。子どもがどちらに転ぶか分からず不安があった。
- ・児童が授業の中で自分の思いを发表することができなかったため、ワークシートの「ありがたかった」の思いを聞き取りたい。

【協議】

- 多くの資料や写真を準備していた。
- 導入は、中島先生に来ていただいたりインタビューの様子や作業の様子を動画で見たりするなど視覚的に示すと、メリハリがついて良かったのではないかな。
- 自分がすごいなと思うところに「！」マークをつけるなど自己決定させる場面が良かった。児童の実態として話すことや書くことが難しい場合には、三択の中から選ぶ、クイズ形式にする等自己決定ができるようにしたり、先に先生の意見を伝えるなど工夫することも考えられる。
- 一対一で難しい面もあるが、例えば黒板の前で操作したり質問したりするなど立ったり移動したりして動きを取り入れることも考えられる。
- 振り返りで、児童のこれまでの成長を紹介したのが良かった。

【指導助言】山田校長先生より

- ひまわり2組では、周りに関わる事があったので発言があったが、1組ではどうしても関わりが少なく先生と一対一になってしまうので、自分を出したくなるような取り組みが大切である。また、長期の計画を先生の中だけでなく、子どもが思い出し、意識をもち続けることができる掲示など視覚的なものも必要である。
- 授業の中で順番が分かるような視覚支援も大切。

